

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0092		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	主教材 『新詳世界史B』 帝国書院 (検定教科書) ※前年度使用教科書を今年度も使用する 副教材 『最新世界史図説 タペストリー』 帝国書院 ※前年度使用教材を今年度も使用する					
担当教員	横田 数弘					
到達目標						
西洋史 (西欧史) を中心とした学習を通じて、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかを理解する。教養としての知識に加え、歴史的 事象・社会全体の見方・考え方を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	近代史における重要な出来事や人物に関して、詳細かつ正確な知識を習得している。		近代史における重要な出来事や人物に関して、教養として最低限の基本的な知識を習得している。		近代史における重要な出来事や人物に関して、一般的・常識的な知識すら習得できていない。	
評価項目2	取扱地域における地理的諸条件を理解した上で、社会的事象を考察し、論ずることができる。		取扱地域における地理的諸条件を理解した上で、社会的事象を考察できる。		取扱地域における地理的諸条件を理解できず、社会的事象を考察することができない。	
評価項目3	歴史事象と現代社会の諸課題を結びつけて理解し、その上で自分なりに議論を進めることができる。		歴史事象と現代社会の諸課題を結びつけて理解することができる。		歴史事象と現代社会の諸課題を結びつけて理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー DP1						
教育方法等						
概要	西洋 (西欧) 史を中軸に据え、日本や諸地域も包摂していった「世界の一体化」という世界史の大きな流れを理解できるようになることが基本目標である。世界的な分業体制 (近代世界システム) が展開されて成立した現代社会の諸課題を考察するために必要な素材 (政治・経済・社会・文化のありよう) を、総合的かつ具体的に学習する。グローバル化が進む国際社会の中で活躍していくために必要な教養としての歴史知識も修得する。					
授業の進め方・方法	教員単独による講義					
注意点	定期試験の成績を評価対象とする。中間試験と期末試験の総合得点 (平均点) で60点以上を合格とする。年度末の評価が60点に満たない者は、願い出により、次年度に実施される追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を60点とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 500年間の近現代史をどのように捉えるか		年間計画とシラバスの説明 歴史を学ぶ意義とは 現代世界の課題	
		2週	近代ヨーロッパの成立Ⅰ 大航海時代①		「ヨーロッパによる世界の一体化」と現代 ポルトガルによる支配領域の拡大 (アフリカやアジアへの侵攻)	
		3週	近代ヨーロッパの成立Ⅱ 大航海時代②		南北アメリカの風土 スペインによるアメリカ侵攻	
		4週	近代ヨーロッパの成立Ⅲ 大航海時代③		ヨーロッパの商業革命・価格革命 コロンブス交換	
		5週	近代ヨーロッパの成立Ⅳ ルネサンスと宗教改革①		ルネサンスと「人間解放」 ユートピア思想	
		6週	近代ヨーロッパの成立Ⅴ ルネサンスと宗教改革②		宗教改革総論 (プロテスタンティズムや福音主義など)	
		7週	近代ヨーロッパの成立Ⅵ ルネサンスと宗教改革③		宗教改革総論 (つづき) 改革者群像 (ルターなど) ドイツ農民戦争	
		8週	前期中間考査		1～7回の学習内容の確認	
	2ndQ	9週	近代ヨーロッパの成立Ⅶ ルネサンスと宗教改革④		改革者群像 (カルヴァンなど) イギリス国教会の成立 カトリックの対抗宗教改革	
		10週	近代ヨーロッパの成立Ⅷ ヨーロッパにおける学芸の発展		ルネサンスの芸術・学問・科学	
		11週	主権国家体制の形成と展開Ⅰ 16世紀ヨーロッパの全体状況		「戦争と妥協の繰り返し」 絶対王政 新しい生産様式の萌芽	
		12週	主権国家体制の形成と展開Ⅱ スペインの盛衰①		広大な領域を支配するハプスブルク家 フランスとの競争関係	
		13週	主権国家体制の形成と展開Ⅲ スペインの盛衰②		覇権国家スペインの綻び オランダの独立と通商成功	
		14週	主権国家体制の形成と展開Ⅳ ヨーロッパと日本		16世紀から17世紀の日本史概観	
		15週	期末試験		中間試験以降の学習内容の確認	
		16週	補講・成績評価・解説・確認		成績の評価と確認	

後期	3rdQ	1週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅰ 17世紀の危機	寒冷化の進展 農産物の不作・凶作 人口減少と移民送出増加
		2週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅱ イギリスの台頭①	宗教改革とイギリス国教会の発展 イギリスの主権強化
		3週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅲ イギリスの台頭②	先駆的なイギリスの市民革命 ピューリタン革命と名誉革命
		4週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅳ フランス	フランスの宗教戦争 フランスの中央集権化
		5週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅴ ドイツ	三十年戦争とウエストファリア体制の成立
		6週	ヨーロッパ諸国の主権強化Ⅵ 中欧・東欧の概要	東ヨーロッパ諸国概観
		7週	欧米における近代社会の成長Ⅰ 文化芸術の成熟	科学革命の時代 学問・芸術の近代化
		8週	後期中間試験	16～23回の学習内容の確認
	4thQ	9週	欧米における近代社会の成長Ⅱ 英仏の覇権争いとアメリカ独立①	戦争と国家体制構築競争 商業貿易における競争
		10週	欧米における近代社会の成長Ⅲ 英仏の覇権争いとアメリカ独立②	産業革命と近代産業資本主義の成立
		11週	欧米における近代社会の成長Ⅳ 英仏の覇権争いとアメリカ独立③	宗主国イギリスへの不満 アメリカの独立
		12週	欧米における近代社会の成長Ⅴ 英仏の覇権争いとアメリカ独立④	フランス革命
		13週	欧米における近代国民国家の発展Ⅰ 19世紀概観	国民意識の形成 自由主義の高まりと労働運動の高揚 ドイツ統一と経済的地位上昇
		14週	欧米における近代国民国家の発展Ⅱ 20世紀概観	アメリカの台頭 帝国主義の成立と欧米列強の対立 2つの世界大戦
		15週	学年末試験	中間試験以降の学習の確認
		16週	補講・成績評価・解説・確認	成績の評価と確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	30	0	0	0	5	0	35
分野横断的能力	20	0	0	0	5	0	25